

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690300120		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家西ノ京 2Fユニット		
所在地	京都市中京区西ノ京冷泉町119番		
自己評価作成日	令和5年10月19日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ijyosyoCd=2690300120-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ijyosyoCd=2690300120-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和5年12月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

併設施設の小規模多機能型居宅介護たのしい家西ノ京との連携やつながりを積極的に取り入れているため、地域交流が盛んである

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

二条城の西方2キロ、民家や会社の立ち並ぶ一角に設立後6年余の当事業所があります。コロナ禍で地域との関係の薄れた事業所が多い中、地域と良好な関係を築けているのが特徴です。1階の小規模多機能型居宅介護事業所の利用者は近隣からの方が多く、2～3階のグループホームには1階から移行して入居された方も多く、事業所全体が地域と密接に関わっています。周囲が住宅密集地という事もあり、住民の防災意識は高く、事業所の防災訓練には中京消防署、地域の消防団などともに15名の地域住民が参加しています。また、京都市・右京健康友の会が毎月小規模多機能型居宅介護事業所にておこなう「ほっとカフェ」には、地域の方やグループホーム利用者も集い、健康体操や歌や喫茶を楽しんでいます。また、事業所の敷地内に町内会の掲示板の設置場所も提供しています。さらに事業所は新型コロナが5類に移行して以来、家族や友人の居室での面会、家族との外出、外泊なども可能とし、利用者の外部への関心や意欲の減退を防いでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、事業所のビジョンをスタッフとともに作成、実践している	11月を会社の年度初めとし、「生活向上リハビリ」「認知症緩和」、「地域交流」の3つのケア21ビジョンをもとに、それぞれ5つの実践項目を掲げ、毎年10月頃から要職者が見直しを始め、できていなければ次年度に持ち越すなどしている。ケア21ビジョンはスタッフの事務所内の全員が通るところに貼り、意識づけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な限り地域行事への参加をしている	町内会に入り回覧板を回している。階下の小規模多機能型居宅介護事業所でホットカフェを再開している。本格コーヒーを味わいながら、ギター演奏や介護予防体操をおこない、民生委員や多数の地域住民とともにグループホーム利用者も参加して楽しんでいる。事業所敷地内に地域の掲示板の設置場所を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小規模での開催している月一のホットカフェでは、グループホームのスタッフも参加し、地域の方と話す機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に2回運営推進会議を開催しているが、ご家族様の参加は極めて少なく、現状はお便りで情報を提供するのみとなっている。地域の方は参加されている	運営推進会議には地域代表の方々数名が参加している。議事録には、事業所内の構成員、職員体制、入退居者の状況、ヒヤリハットなど、事業所内の様子を記載し、それをもとに意見交換をおこなっている。しかし、行事や取り組み、意見交換の内容などの記載はない。議事録は参加者と行政に配布している。	運営推進会議の議事録は、9月開催のものとは11月開催のものとは書式が異なり、後者は著しく簡素化されています。そのため事業所の取り組み内容が第三者には分かりにくく、透明性が担保されているとは言えません。また、会議に地域包括支援センター職員の出席や関与もなく、会議参加者との質疑応答の記録もありません。本来の運営推進会議の意義を再確認され、参加メンバーや会議進行への工夫が望まれます。また、議事録の足りないところは資料を補足するなどして、全家族への配布と周知を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所に行く機会はあるが、事務的なことのみで情報を伝えることはできていない	新型コロナが5類に移行後は、特に意識しての連携はないが、事故報告などに市に出向く機会はある。運営推進会議議事録を行政に提出している。防災訓練に消防署員が来て指導に当たっている。	

京都府 グループホームたのしい家西ノ京 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を受講することにより、身体拘束に対しての正しい認識を持っている	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、3か月ごとに委員会を開催している。参加者は、管理者、副管理者、各階のフロアーリーダー、計画作成担当で、一般職員には議事録を回覧して周知を図っている。センサーマットは見守りと位置づけてケアプランに載せ、家族の同意を得ている。年2回、全職員がWEB研修で日々の実践を振り返り、履修後のテストの結果により、再履修の場合もある。帰宅願望の顕著な方は現在おられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の受講や会議などで不適切なケアに対して取り上げる機会を設け、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修の受講などで高齢者の権利擁護を学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には管理者やケアマネが対応し、しっかりと説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的には本社よりご家族様へアンケートの送付、回収、集計を行っており、しっかりと現場への落とし込みがされている	本人には日頃から意向確認をしている。本社が全家族にアンケートをとり、概要が本社から事業所に降りてきている。一番関心のあった面会希望に関しては、この6月から居室での面会も可能としている。家族に確認して許可を得たのち、知人も居室に入ってもらっている。家族による好物の差し入れなどもある。一応担当制ではあるが、全職員が全家族に対応できるように情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談に加え、スタッフからの意見はないがしるにせず、上長へ報告し、会社として反映に取り組んでいる	管理者は、職員と垣根を作らずフラットな関係で働けるように配慮している。研修希望など、職員の希望は「できる限り叶えてあげたい」と言い、職員からも、自分の意思を尊重してもらえ、「自由に働けて毎日が楽しい」とヒアリングで聞き取った。本社が全職員にアンケートをとり、職員の意向を把握している。外国籍職員のベトナム料理の披露も好評で、職員のやりがいに繋がっている。帰国のための休暇への配慮もある。	

京都府 グループホームたのしい家西ノ京 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談に加え、スタッフからの意見はないがしるにせず、上長へ報告し、会社として反映に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人を大事にし、人を育てるといった経営理念をもとに研修やフォローアップ体制は整っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流は頻繁にあり、情報交換に努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずアセスメントとして本人様にお会いし、直接本人様の声に耳を傾けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や、入居までの期間に何度も連絡を取り合い、事細かに要望を聞き、都度説明などを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設入居ばかりを案内せず、本人様、ご家族様の要望にできるだけ見合ったサービスを勧めるなどの対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に」をビジョンの取り組みともしており、スタッフとご利用者様はできるだけ距離の近い存在であるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡等は密に努めており、常にご利用者様のケアをしていくにあたって何らかの協力などはお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらからなじみの場所に連れて行く等の対応は困難ではあるが、本人様や関係者の方からの依頼により、何らかの対応はしている	家族や友人の来訪があり、1階の小規模多機能型居宅介護事業所との合同の取り組みなどで、町内会の人々や馴染みの方々と交流している。外泊や家族との外出も自由になり、馴染の場所や墓参に行き、法事、葬儀などへの参加もある。趣味を生かし、貼り絵、塗り絵、編み物に勤しみ、DVDに合わせて歌を歌い、口腔・全身体操もおこなっている。家事の得意な方は洗濯物畳みや掃除などもしている。職員が毎月写真にコメントを添え、本人の様子を家族に知らせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性なども見極め、全ご利用者様が輪に入れられるよう取り組んでいる		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからアクションを起こすことは極めて少ないが、必要に応じて支援していきたい		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成の際には必ずご本人様やご家族様の意見を伺い、プランに反映させている	本人の思いは施設サービス計画表の第1表や、ケアチェック表(アセスメント表)の「本人の訴え」欄に○をつけ、具体的内容を書き留めている。コルセットへの違和感を訴える方には気を付けて調節して、気分を和らげている。食べ物の要望は、家族に伝えたり、全員で食べられるものは食事レクリエーションや誕生日などに実現している。夜におなかのすく方にはおやつを提供するなどして、本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントにはご本人様やご家族様、これまでの関係者に会い、どのような生活をしてきたかの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なフロア会議などのご利用者様の情報共有を行い、把握に努めている		

京都府 グループホームたのしい家西ノ京 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やフロア会議などではチームでの話し合いが行われ、本人様に合ったプランの作成に当たっている	アセスメントと施設サービス計画は半年ごとに作成し、状態に変化があれば随時モニタリングとケアカンファレンスを実施して計画を変更している。ケアマネジャーは適確に本人の状態を把握し、家族や多職種の意見を容れて計画を立案している。計画の第2票の記録も詳細で、本人の状態像が第三者にも明瞭である。本人ができる事、できない事、支援の必要な箇所の棲み分けをし、自立支援を意図した計画となっている。	丁寧で分かりやすく、本人に即した介護計画ですが、介護職員がどの程度計画を意識して実践しているのかが見えません。介護計画の職員への浸透を図る手立てをご一考下さい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	こまめな記録や申し送り、会議などで情報交換を行い、ケアの実践やプランの見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時に必要な支援をスタッフみんなで行い、実践している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小規模との連携などを積極的に行い、皆さんが楽しんで生活できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と密に連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している	入所後も在宅時のかかりつけ医の継続が可能であることを契約時に説明しているが、ほぼ全員が事業所の協力医療機関に変更している。訪問の医師の月2回の診療と必要時の往診がある。専門外来には家族に受診同行をしてもらっている。事業所から職員が送り、病院で家族に引き継ぐこともある。看護師が常勤で勤務しており、24時間のオンコール体制でかかりつけ医と連携し、緊急時には病院受診の指示や薬の処方を受けている。訪問マッサージを契約している方もいる。毎週訪問歯科医の診療と口腔ケアを受け、必要時には往診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と密に連携を取り、適切な看護を受けられるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と密に連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の情報はあらゆる方法を用いてご家族様に伝え、今後の事も含めてお話しする機会を設けている	「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」をもとに、事業所における看取りについて入所時に丁寧に説明している。緊急時や終末期医療について、本人及び家族の意向を聞き、同意書を得ている。職員は看取りのWEB研修を受けている。看取り期には状態変化に応じて随時家族に意思確認をし、面会時間の制約もなくしている。この1年で事業所全体で3名を看取っている。逝去後のお別れは、他の利用者とともに見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応など、研修を通じてスタッフみんなに周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策や対応なども研修や会議を通じてスタッフに周知している	年2回の消防訓練は2回とも消防署立会いでおこなわれている。6月の訓練は地域と合同開催し事業所のガレージでおこなった。地域の方が15名参加され、水消火器の訓練をしている。12月の夜間想定避難訓練では、利用者をベッドから起こし避難口までの誘導に何分かかかるかを計測、検証している。12月は消防署によるAEDの研修も受けている。各フロアには職員連絡網が配置され、職員への通報訓練もおこなわれている。食料・衛生用品などの備蓄は本社から届き、発電機の用意もある。事業継続計画(BCP)は作成されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様ひとりひとりの生活歴、性格の把握に努め、適切な対応を心がけている	接遇の研修にプライバシーに関連する内容があり、WEB研修(CTレーニング)にて職員全員が受講している。テスト形式で気づきを促し、報告書を作成してもらっている。支援にあたっては、本人の生活歴を聞き、そこから形成された考え方や人格を尊重して支援している。入所時のアセスメントでも、起きる時間や入浴時の動作、好みの洋服など聞き取り、支援に生かしている。扉の開閉時にも必ず声かけをし、特に異性による介助の時は気を付けている。	

京都府 グループホームたのしい家西ノ京 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面で選択肢を持ってもらい、自己決定に向けて支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせる支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で身支度のできない方でも、衣類に選択肢を持ってもらい、ご自身で選んでもらえるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの嗜好等を把握し、食事を楽しんでもらえるよう努めている	副食は業者から冷凍で届き、湯せんをして提供している。小鉢一品とみそ汁、ご飯は事業所で作っている。朝は主にパン食である。ペースト食やゼリー食は業者に発注し、刻み食は事業所で個別に対応している。利用者には配膳や食器拭きなどをしてもらっている。嗜好は普段の会話から聞き取り、行事食やおやつレクリエーションに取り入れている。クリスマスや誕生日のケーキは、手作りや、スポンジだけ購入し、クリームやトッピングを工夫したりと色々である。正月には業者が正月用の華やかなメニューを用意している。ベトナム人スタッフによる「バインセオ」という母国料理を楽しむこともある。また、ユニットに梅干等を用意して昔からの馴染みの食習慣も維持している。愛用の食器や湯飲みを使う方もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療との連携も含め、必要な栄養が摂れるよう働きかけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、拒否の強い方等は工夫をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、できるだけ自立した排泄が行えるよう支援している	排泄パターンはタブレットにて管理し、日中は必要な方に定時誘導をしている。退院後立位が取れるようになり、おむつからリハビリパンツに変更し、夜間もトイレで排泄できるようになった方がいる。トイレの訴えが頻回な方には、医師による尿間隔を長くする薬の投与や、排便コントロールの見直しなどで、本人が不安なく過ごせる方法を職員間で繰り返し検討している。	



京都府 グループホームたのしい家西ノ京 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握に努め、積極的に水分摂取や体操などを取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴日の設定はしているが、個々の状態に合わせて変更している	入浴は午前中に2人、午後から1人を基本にしているが、その時々で臨機応変に対応している。入浴時間を午前と午後に分散することで担当職員の負担が減り、ゆったりした気持ちで入浴してもらっている。利用者の希望にもできる限り応えている。お湯は毎回交換し、ゆず湯を楽しむこともある。足ふきマットは1人ずつ交換して清潔を保っている。入浴拒否のある方も時間をずらしたり職員を変えたりすることで機嫌よく入っている。重度の介助の要る方はシャワ浴と足浴をおこなっているが、浴槽に浸かるのが好きな方には2人介助で浸かってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に横になる時間を作ったり、その人に合わせた生活スタイルを送れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や処方時には薬剤師からの薬の申し送りを受け、全スタッフに周知するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在のADLやこれまでの生活歴の把握に努め、個々の得意なものを見つける。やりがいを持った生活を送っていただけよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状では外出できる機会は少ないが、ご家族様に協力の下、外出できている方はおおい	新型コロナと職員体制の都合で、日常的な散歩にはあまり出かけていない。そんな中でも玄関先の駐車場まで出て、日光浴と気分転換をすることもある。散歩などの外出は主に家族の協力を仰いでいる。今年度は外出行事もおこなえていない。	家族にとっては、コロナ禍での運動不足や、筋力低下が非常に気になると思います。家族と出られる方は良いのですが、そうでない方には、職員体制を工夫するなどして、適切な配慮を望みます。近所のスーパーやコンビニエンスストアへの買い物に同行されては如何でしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	現在、お金をご自身で所持している方はいない		

京都府 グループホームたのしい家西ノ京 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら、というところは困難ではあるが、希望があれば対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて壁飾りを作成、飾りつけをしている	西と南に大きな腰高窓が配置されたリビングルームは明るく広い。室内全ての壁にはぐるりと横手すりがつき、日常的に生活の中で機能訓練おこなえる工夫がされている。大きなテレビとソファがあり、壁には利用者と職員が多様な素材で作ったクリスマスツリーが数点飾られて季節感を演出している。対面キッチンのカウンターは広く、利用者とともに食事の配膳をしたり、それ以外に多目的に使用できる。利用者は趣味の貼り絵や洗濯物置み、体操などで、思い思いの過ごし方をされている。洗面所はフロアの中央に三か所あり食後の口腔ケア用に椅子が置かれている。大きな加湿機能付き空気清浄機が2台置かれている。室温や室内の明るさ、テレビとBGMの切り替えにも注意し、快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置などで対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のものは全て持ち込みのものになっているため、ご家族様に協力していただき、本人様の好みのものを揃えていただいている	居室のクローゼットには、季節外れの衣類や寝具、自宅で使っていた愛用のミシンを収納している方もいる。リビングで過ごす方が多いが、食事の後、居室でゆっくりテレビを見てくつろいでいる方もいる。和風の暮らしを好まれる方は、床にマットレスなどの寝具類を畳んで置いている。好みの家具や仏壇を置いている方もいる。配偶者の葬儀後の後飾りの祭壇を忌明けまで置いて供養された方もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所や物の認識のない方にもわかるよう張り紙をする等の工夫をしている		